

1回(昭2年卒)～
23回(昭24年卒)
卒業生2,835名

1回(明43年卒)～
39回(昭24年卒)
卒業生3,327名

1回(昭23年卒)～
78回(令8年卒)
卒業生31,878名



双鶴同窓会報
発行〒624-0841
京都府舞鶴市字引土145
京都府立西舞鶴高等学校

双鶴同窓会
☎(0773) 75-3131

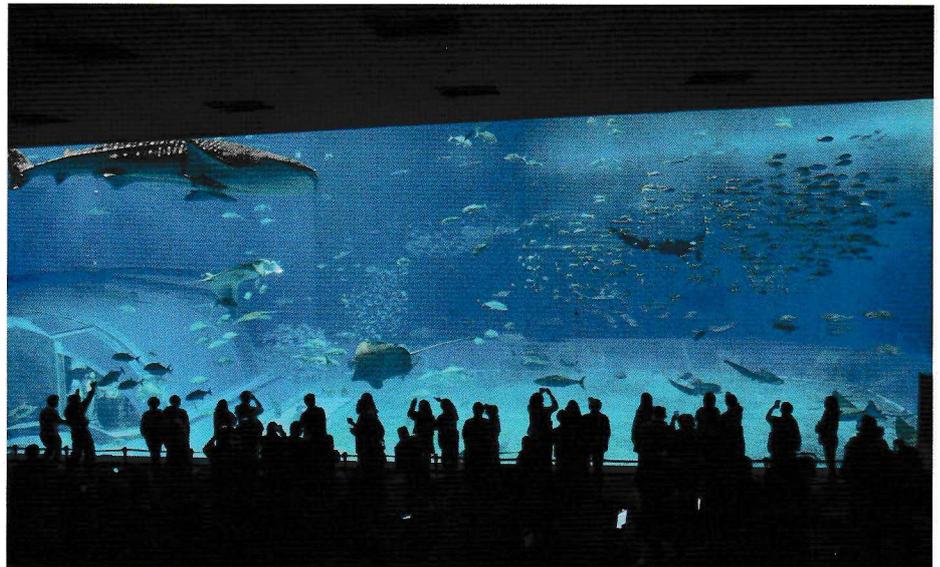
編集責任者 中西 毅
印刷 オガワ印刷

校訓
究理 尚志 敬人

令和8年3月 卒業生
高校生活の思い出



▲令和5年4月 入学式(全日制)



▲令和6年12月 研修旅行(全日制)



▲令和7年4月 第3学年遠足(全日制)



▲令和7年11月 彩雲祭[文化祭](通信制)



▲令和7年9月 文化祭(全日制)



▲令和7年10月 球技大会(全日制)



▲令和7年8月 ものづくり教室(通信制)

双鶴同窓会ホームページについては、「双鶴同窓会」で検索してください。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。同窓会を代表して心からお喜び申し上げます。卒業生の皆さんには、卒業と同時に本校の同窓会である「双鶴同窓会」に入会していただくこととなります。この機会に、同窓会の歴史と伝統行事について少し紹介をしておきます。

本校の同窓会は、昭和二十三年の学制改革によって、舞鶴高等学校（舞女・明治四十年開校）、舞鶴中学校（舞中・大正十一年開校）と新たに開校した西舞鶴高等学校の全日制、定時制、通信制の同窓会が統合されて誕生しました。このとき、

舞女・舞中の番（つがい）の鶴から生まれた若鶴が西舞鶴高等学校ということで、双鶴同窓会と命名されました。結成以来七十七年、歴代の会長様をはじめ同窓の諸先輩方が築いてこられた輝かしい歴史と伝統を引き継いで現在に至っています。

本部を母校に置き、会員相互の教養を高め、親睦を図り、母校の発展を支援する目的を持って活動すると会則で定められ、例年六月には理事・評議員が集まり、地元舞鶴で本部総会を開催しています。また、東京・阪神・京都地区に同窓会支部があり、それぞれ二年に一度、支部に在住する同窓生が集まり、支部総会と懇談会が開催されています。

さらに、五年ごとに同窓会名簿を改訂発刊し、毎年六月と三月には、本部総会の開催と卒業生の同窓会への入会に合わせて同窓会報「双鶴」を発行しています。また、同窓生の要望に応え現在ホームページを開設し、同窓生の様々な活動状況や様々な情報を発信しています。

この他、全日制では先輩方から引き継がれている「高校卒業三十周年記念同窓会」が地元舞鶴で開催されています。今年も一月二日に四十七回生（平成七年卒）が恩師の先生方や同窓会役員、同窓生の仲間が多数集い盛大に開催されました。

卒業三十周年記念同窓会では、高校時代を共に過ごした同窓年の仲間が全国各地からふるさと舞鶴に集まり、祝宴が開始されるやいなや、出席者一同高校生に戻って、時間が過ぎるのも忘れ、懐かしい高校時代を語り合い、卒業以来途絶えていた同窓年の仲間の絆を深め、母校西舞鶴高校に対する思いを新たにしている伝統行事となっています。

通信制では二年に一度「通信制の会」が開催され、世代を超えた先輩後輩が集い、和やかな雰囲気の中で恩師を囲み、少人数で頑張



同窓会の歴史と伝統行事
双鶴同窓会会長 内藤 行雄
(昭和四十二年西高十八回卒)

同窓会の歴史と伝統行事

つた学校行事やレポート作成で苦労した思い出話など、笑いあり涙ありの同窓会が開催されています。先に紹介しました本部総会をはじめ、東京、阪神、京都支部総会には、幅広い世代の方々が出席されます。会場の雰囲気慣れるまでは多少堅苦しさを感ずりますが、そこは同じ学び舎で学んだ者だけが共有できる独特の空気感と心地よさがあり、同窓生の絆は世代を超えて一気に広がります。こうした同窓会の伝統行事をとおして感じる、同窓年の仲間同士

皆さんのところに、こうした同窓会行事の案内が届きましたら、同窓生としては是非参加していただくようお願いいたします。そして、この素晴らしい同窓生の絆を次の時代につなぐ担い手になっていただくようお願いいたします。結びに、卒業生の皆様の今後益々の健勝とご活躍をお祈り申し上げます、お祝いの言葉とします。



▲令和6年4月 第2学年遠足（全日制）



▲令和7年6月 体育祭（通信制）

いっしょな活動をしています

沿革と活動（抜粋）

- 昭和23年10月 学制改革にて京都府立西舞鶴高等学校開校 同 双鶴同窓会発足
- 昭和23年10月 京都支部結成（以後隔年総会）
- 昭和25年8月 東京支部結成（以後隔年総会）
- 昭和50年6月 阪神支部結成（以後隔年総会）
- 昭和52年3月 双鶴同窓会会報第1号発行される
- 昭和53年11月 舞女創立70周年 西高創立30周年記念行事
- 昭和57年5月 舞中創立60周年 大江選手像・舞中碑建立
- 昭和58年11月 文化講演会（第1回）が開催される
- 文化講演会は以後毎年開催
- 昭和59年7月『郷土を考ふるパネルディスプレイ』開催
- 昭和60年5月 新就職者の激励会始まる
- 昭和61年 舞女80年史完成
- 昭和62年 舞女校歌碑建立
- 昭和23年10月 同窓会所有地を京都府に寄付
- 昭和63年 同窓会会員名簿（第6回）発刊 舞女校歌碑を城北中より移転 双鶴会館竣工 通信制同窓会発足
- 平成元年9月 定時制の会発足 東西同窓会合同事業（11月）
- 平成5年 創立85周年記念誌発刊
- 平成7年 同窓会会員名簿（第7回）発刊
- 平成12年 同窓会会員名簿（第8回）発刊
- 平成17年 同窓会会員名簿（第9回）発刊
- 平成19年 高校校歌碑建立 百周年記念誌「致思」発刊
- 平成22年 同窓会会員名簿（第10回）発刊
- 平成23年 双鶴同窓会ホームページ開設
- 平成27年 同窓会会員名簿（第11回）発刊
- 令和2年 同窓会会員名簿（第12回）発刊
- 令和7年 同窓会会員名簿（第13回）発刊

卒業生の皆さん、卒業おめでとうでございます。同窓会を代表して心からお喜び申し上げます。卒業生の皆さんには、卒業と同時に本校の同窓会である「双鶴同窓会」に入会していただくこととなります。この機会に、同窓会の歴史と伝統行事について少し紹介をしておきます。

本校の同窓会は、昭和二十三年の学制改革によって、舞鶴高等学校（舞女・明治四十年開校）、舞鶴中学校（舞中・大正十一年開校）と新たに開校した西舞鶴高等学校の全日制、定時制、通信制の同窓会が統合されて誕生しました。このとき、

舞女・舞中の番（つがい）の鶴から生まれた若鶴が西舞鶴高等学校ということで、双鶴同窓会と命名されました。結成以来七十七年、歴代の会長様をはじめ同窓の諸先輩方が築いてこられた輝かしい歴史と伝統を引き継いで現在に至っています。

本部を母校に置き、会員相互の教養を高め、親睦を図り、母校の発展を支援する目的を持って活動すると会則で定められ、例年六月には理事・評議員が集まり、地元舞鶴で本部総会を開催しています。また、東京・阪神・京都地区に同窓会支部があり、それぞれ二年に一度、支部に在住する同窓生が集まり、支部総会と懇談会が開催されています。

さらに、五年ごとに同窓会名簿を改訂発刊し、毎年六月と三月には、本部総会の開催と卒業生の同窓会への入会に合わせて同窓会報「双鶴」を発行しています。また、同窓生の要望に応え現在ホームページを開設し、同窓生の様々な活動状況や様々な情報を発信しています。

この他、全日制では先輩方から引き継がれている「高校卒業三十周年記念同窓会」が地元舞鶴で開催されています。今年も一月二日に四十七回生（平成七年卒）が恩師の先生方や同窓会役員、同窓生の仲間が多数集い盛大に開催されました。

卒業三十周年記念同窓会では、高校時代を共に過ごした同窓年の仲間が全国各地からふるさと舞鶴に集まり、祝宴が開始されるやいなや、出席者一同高校生に戻って、時間が過ぎるのも忘れ、懐かしい高校時代を語り合い、卒業以来途絶えていた同窓年の仲間の絆を深め、母校西舞鶴高校に対する思いを新たにしている伝統行事となっています。

通信制では二年に一度「通信制の会」が開催され、世代を超えた先輩後輩が集い、和やかな雰囲気の中で恩師を囲み、少人数で頑張

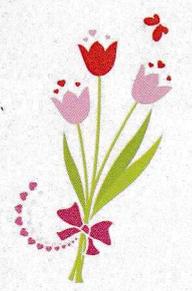


同窓会の歴史と伝統行事
双鶴同窓会会長 内藤 行雄
(昭和四十二年西高十八回卒)

った学校行事やレポート作成で苦労した思い出話など、笑いあり涙ありの同窓会が開催されています。先に紹介しました本部総会をはじめ、東京、阪神、京都支部総会には、幅広い世代の方々が出席されます。会場の雰囲気慣れるまでは多少堅苦しさを感じますが、そこは同じ学び舎で学んだ者だけが共有できる独特の空気感と心地よさがあり、同窓生の絆は世代を超えて一気に広がります。こうした同窓会の伝統行事をとおして感じる、同窓年の仲間同士の絆、また、世代を超えた先輩後輩の強い絆は、長い歴史と伝統によって築かれた双鶴同窓会の何物にも代えがたい財産となっています。

皆さんのところに、こうした同窓会行事の案内が届きましたら、同窓生としては是非参加していただくようお願いいたします。そして、この素晴らしい同窓生の絆を次の時代につなぐ担い手になっていただくようお願いいたします。

結びに、卒業生の皆様の今後益々の健勝とご活躍をお祈り申し上げます。お祝いの言葉とします。



▲令和6年4月 第2学年遠足（全日制）



▲令和7年6月 体育祭（通信制）

いっしょな活動を
沿革と活動（抜粋）

- 昭和23年10月 学制改革にて 京都府立西舞鶴高等学校開校 同 双鶴同窓会発足
- 昭和23年10月 京都支部結成（以後隔年総会）
- 昭和25年8月 東京支部結成（以後隔年総会）
- 昭和50年6月 阪神支部結成（以後隔年総会）
- 昭和52年3月 双鶴同窓会会報第1号発行される
- 昭和53年11月 舞女創立70周年 西高創立30周年記念行事
- 昭和57年5月 舞中創立60周年 大江選手像・舞中碑建立
- 昭和58年11月 文化講演会（第1回）が開催される
- 文化講演会は以後毎年開催
- 昭和59年7月『郷土を考ふる パネルディスプレイ』開催
- 昭和60年5月 新就職者の激励会始まる
- 昭和61年 舞女80年史完成
- 昭和62年 舞女校歌碑建立
- 昭和63年 同窓会会員名簿（第6回）発刊 舞女校歌碑を城北中より移転 双鶴会館竣工 通信制同窓会発足
- 平成元年9月 定時制の会発足 東西同窓会合同事業（11月）
- 平成5年 創立85周年記念誌発刊
- 平成7年 同窓会会員名簿（第7回）発刊
- 平成12年 同窓会会員名簿（第8回）発刊
- 平成17年 同窓会会員名簿（第9回）発刊
- 平成19年 高校校歌碑建立 百周年記念誌「致思」発刊
- 平成22年 同窓会会員名簿（第10回）発刊
- 平成23年 双鶴同窓会ホームページ開設
- 平成27年 同窓会会員名簿（第11回）発刊
- 令和2年 同窓会会員名簿（第12回）発刊
- 令和7年 同窓会会員名簿（第13回）発刊

編集後記

卒業おめでとうございます。同時に双鶴同窓会への加入を心から歓迎します。



現在の日本では多くの企業で六〇歳で退職し、六五歳まで再雇用が認められている。ただしこの年齢になると新しい分野に挑戦するのは、大変なことだ。あそ

忠敬は一七四五年(延享二年)、小関村(現・千葉県山武郡九十九里町小関)の地主・小関五郎左衛門家で生まれた。幼名は三治郎。六歳の時には母が亡くなり、一時期親戚を転々としたと言われている。一方で、この時期に読み書きを

た伊能家の財政を建て直し、巨富を築く。五〇歳で隠居した彼は、江戸に出て高橋左衛門の門下に入る。高橋は日本の数学者である。ここで忠敬は一年あまり高等数学を学んだ。天賦の素質があったためだ。ついで、彼はこの短い間に高橋の知識をすべて吸収してしまっただけで

このとき、日本は鎖国の状態であった。国は閉ざされていたが、この頃にはロシア人が北海道周辺に來航するようになっていた。それで幕府は、精密な日本地図の作成を高橋に命じたのである。この重大な仕事が忠敬に回ってきた。しかし歳が歳である。当時の平均寿命付近に達しつつある彼には、残された時間が

また、彼は歩測の訓練を開始し、江戸を歩き回った。このときに彼は、磁石が正確に南北を指し示さないことを発見している。これは地球の自転する回転軸が傾いているためだが、その誤差を補うために北極星を観測する方法を探り入れた。このような工夫を重ねながら、忠敬は地道な測量を繰り返したのである。毎晩

北極星を眺め、それをもとにして三角測量を行う。

こうして日本の海岸線は正確に地図に表されることになるのだが、それは決して派手な仕事ではなかった。

作家の井上ひさしも、忠敬を主人公にした小説『四千万歩の男』(講談社文庫)の「前書き」で、次のように言っている。

『五六歳から七二歳までの十六年間「歩てく」一問の歩幅で日本国の海岸線を歩き尽くして、実際に日本国を完成。この間に彼の歩いた距離は二二万五〇〇〇キロ、里に換算すれば八九〇〇里、歩数にして四〇〇〇万歩。たしかにこれは大事業である。けれども愚直な』という形容詞がくく大事業ではないか。生意気にもそう思っ、二〇代後半だった筆者は、なんの末練もなく忠敬先生とサヨナラしたのである。

「前掲書」(P.4ページより引用)
ところが十数年たって、「忠敬が人生の達人だった」ことに井上は気づく。二〇代では見えなかったものが、人生の分岐点を目前に見えてきたのである。人生の分岐点を迎えても、何も恐れる必要はない。より豊かな人生が待っているかもしれない。いわば「一身に二生を生きる」。忠敬の日本地図には次のような後日談がある。

それはペリーの來航を巡る話である。一八五三年(嘉永六年)六月、浦賀に來航したペリーは、すぐに江戸灣の綿密な調査を開始したが、すぐにその地形が

シボルトの『日本』に掲載されていたものと一致することに気づいた。このシボルトの地図の原図を作ったのが伊能忠敬である。

それを知ったペリーは日本の技術水準の高さに驚き、日本に対する認識を改めた。地味ではあっても、実に重い仕事を忠敬は成し遂げていたのである。

さて、話を同窓会に戻す。
双鶴同窓会の活動にも同じことを感じる。七八年続く同窓会の仕事は大半が地味な活動だが、多くの同窓会員を結びつけるという実に重い仕事を担っている。

今年度いくつかの支部で役員の方々が交代された。これまで長きにわたってその役割を果たしていただいた旧役員の方々に心から感謝の言葉を贈りたい。

これからは現役員の方々、そして新たな役員となられた方々と一緒に人と人をつなぎつづける役割を果たしていきたい。

さて、双鶴同窓会では定期的に同窓会名簿を発刊しております。今年度、「令和7年度版」が発行されました。これを機会に是非、購入されることをおすすめ

いたします。購入を希望される方は事務局(学校)まで申し出て下さい。(有料)

伝統的行事の紹介

毎年卒業後三〇周年の記念式典、祝賀会、記念誌等の発行、そして母校への記念品の贈呈など、このような行事を通じて横の連携を深め、卒業後母校のために力強く温かい援助をいただいております。

また、東京・阪神・京都の三支部があり二年に一度の支部総会が盛大に開催されております。親元を離れて生活する皆様にとっては心強いと思います。各支部事務局と連絡を密に同窓会活動に積極的に参加してください。

連絡とお願

同窓会委員の住所などのデータは専門業者によって厳正に管理されており、住所変更等は必ず本部事務局(学校)に連絡してください。また、同窓会とはまったく関係のない業者からの問い合わせや勧誘があるようですが、連絡先が同窓会本部(学校)以外のものは無視してください。

最後になりましたが、今後同窓会名簿をお持ちになった場合は、個人情報を含みますので、その管理につきましてはくれぐれも慎重をお願いします。

【最新改訂版】2016.6.11

京都府立西舞鶴高等学校 双鶴同窓会会則

- 第1条 本会は双鶴同窓会という。
第2条 本会は本部を西舞鶴高等学校におく。
第3条 本会は会員の教養を高め、相互の親睦を図ると共に母校の発展を援助することを目的とする。
第4条 本会は次の会員および客員を以て組織する。
1. 会員 (イ) 舞鶴高等学校、舞鶴第一高等学校卒業生 (ロ) 舞鶴中学校、舞鶴第一中学校卒業生 (ハ) 西舞鶴高等学校卒業生 (ニ) 以上の学校に在学したもので入会を希望する者
2. 客員 1項に該当する学校の旧職員および現職員
第5条 本会の目標達成のため委員会をおくことができる。委員長には副会長の1人を充てる。
第6条 委員会および支部の会則は別に之を定める。
第7条 本会に次の役員をおく。
1. 会長 会員の中より総会で選出する。
2. 副会長 理事の中より若干名を選出する。
3. 理事長・副理事長 理事の中より各1名会長が委嘱する。
4. 庶務理事・会計理事 学校より推薦された若干名および評議員より若干名を会長が委嘱する。
5. 理事 評議員の中より適当数会長が委嘱する。
6. 評議員 各学年において互選により適当数を選出する。
7. 監査 評議員の中から2名選出する。
第8条 役員は次の通りとする。
1. 会長は本会を代表し会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代わる。
3. 理事長は会務全般を処理する。副理事長は理事長を補佐し理事長事故あるときはこれに代わる。
4. 庶務理事は庶務を処理し、会計理事は会計を処理する。
5. 理事は理事会において総会附議事項を審議する。
6. 評議員は総会で総会附議事項を審議する。
7. 監査は会計を監査する。
第9条 役員は任期は2ヶ年とする。
第10条 本会に顧問若干名、参与若干名を置くことができる。顧問に西舞鶴高等学校長その他適当な学校関係者を会長が委嘱する。参与に元会長を会長が委嘱する。
第11条 本会の経費は会費およびその他収入をもつてこれに充てる。
第12条 本会の入会に際して会費4,000円を納める。
第13条 本会は第3条の目的を達成するため次の事業を行う。
1. 会員名簿および会報の発行
2. 会員の慶弔および慰問
3. その他必要な事業
第14条 本会は毎年1回総会を開く。総会は理事、監査、評議員で構成する。
第15条 会員は転居等の変動を遅滞なく本部に報告するものとする。
第16条 付則
1. 本会会則の変更は総会の決議による。
①改定:第14条末尾の「部会」は毎年1回これを開く。を削除する(平成21年6月13日)
②改定:第5条、第6条、第7条、第8条、第14条、第15条を改定する。(平成24年6月9日)
③改定:第7条4項を改定する。(平成28年6月11日)